

---

# 5

---

## 万一のとき

---

### 工具・スペアタイヤ・発炎筒

格納場所 .....	84
工具の種類 .....	85

### 故障したとき

発炎筒について .....	86
踏切で動けなくなったとき .....	86
高速道路で故障したとき .....	87
故障の修理について .....	87
けん引について .....	87

### パンクしたとき

ジャッキの取り扱い .....	89
応急用スペアタイヤ .....	90
タイヤ交換 .....	91

### バッテリーあがりのとき .....

### オーバーヒートしたとき .....

### ライト類が点灯しないとき

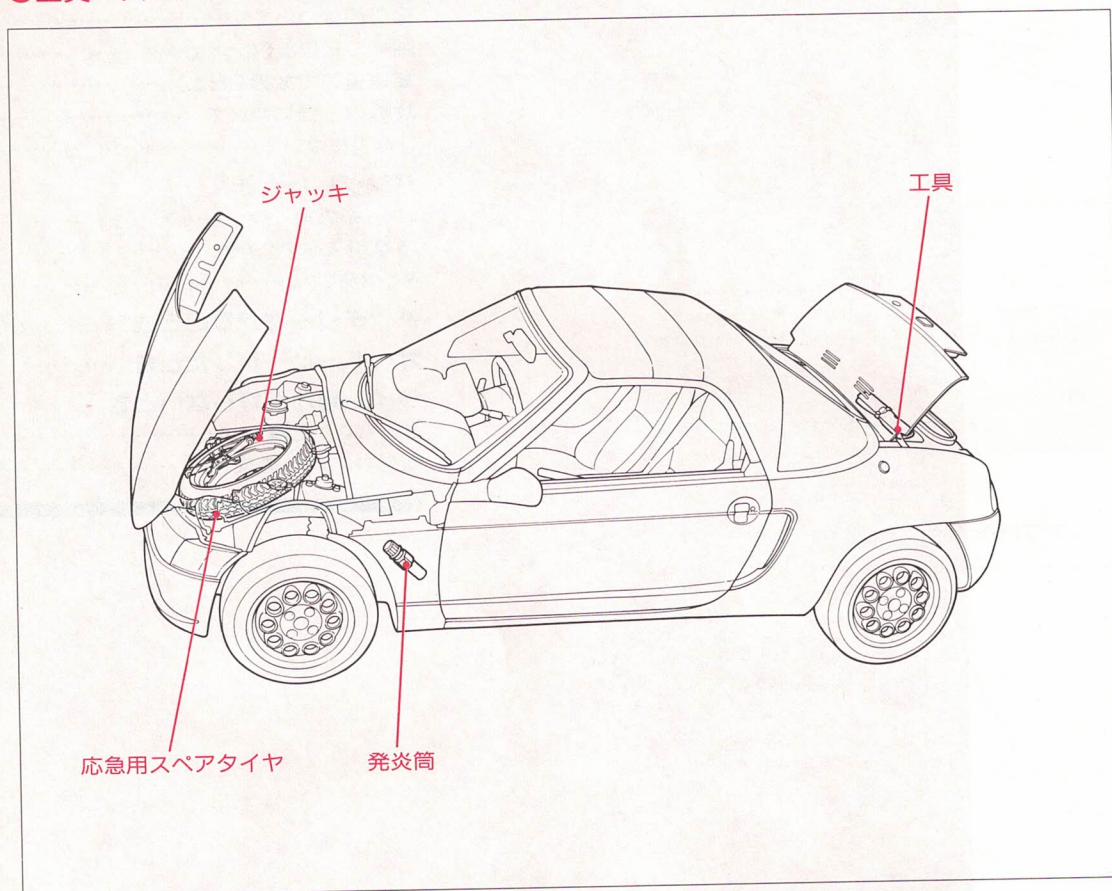
ヒューズの交換 .....	96
電球(バルブ)の交換 .....	97

---

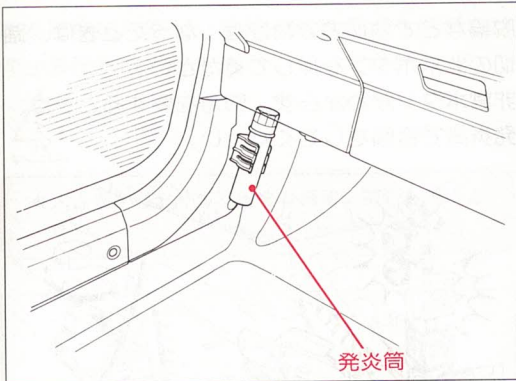
## 工具・スペアタイヤ・発炎筒

### 格納場所

●工具・スペアタイヤ・発炎筒

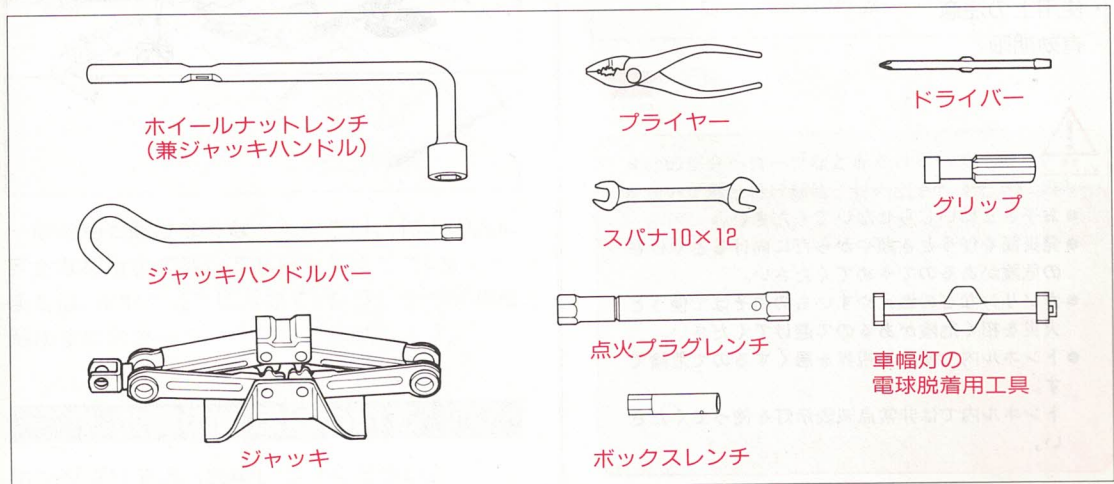


●発炎筒



発炎筒は助手席足元にあります。

工具の種類



- 工具の種類、ジャッキ、発炎筒の使いかたなどはあらかじめ確かめておきましょう。
- スペアタイヤ、ジャッキは所定の位置にしっかり固定してください。
- 高速道路で故障などにより停止するときは、停止表示器による表示義務がありますので、停止表示板などを常時携帯するようにしましょう。



● 工具類は熱くなっている場合がありますので、使用する際は注意してください。

## 故障したとき

車を路肩に止め、非常点滅表示灯を点滅させます。必要に応じて停止表示板、発炎筒を使い、後続する車に故障車とわかるようにします。

### 発炎筒について

高速道路、踏切などの危険な場所で故障したときに使います。

発炎筒に記載されている次のことをよく読んであらかじめ確認しておいてください。

- ・ 使いかた
- ・ 発炎時間
- ・ 使用上の注意
- ・ 有効期限

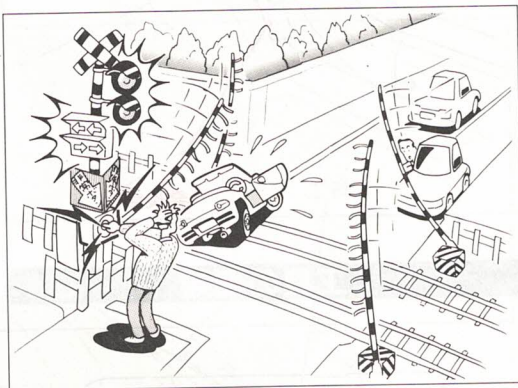


- お子さまにいらさないでください。
- 発炎筒を使うとき顔やからだに向けてとやけどの危険があるのでやめてください。
- ガソリンなどの燃えやすいもののそばで使うと火災を招く危険があるので避けてください。
- トンネル内で使うと視界を悪くするので危険です。  
トンネル内では非常点滅表示灯を使ってください。

### 踏切で動けなくなったとき

脱輪などで踏切内で動けなくなったときは、踏切の非常ボタンを押してください。

非常ボタンがわからず、緊急を要するときは、発炎筒で合図をしてください。

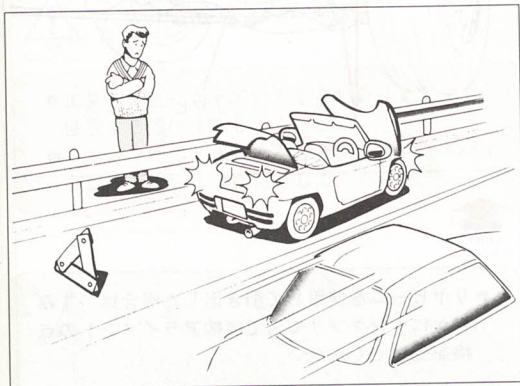


### 高速道路で故障したとき

車を路側帯に寄せ、非常点滅表示灯を点滅させ、停止表示板を置いて表示してください。



●人は車からおりて、安全な場所に避難してください。



一般道路で動けなくなったときは、付近の人に安全な場所まで押してもらってください。または、ギヤを 2 に入れて、クラッチペダルを踏まずにスターターを回して移動します。

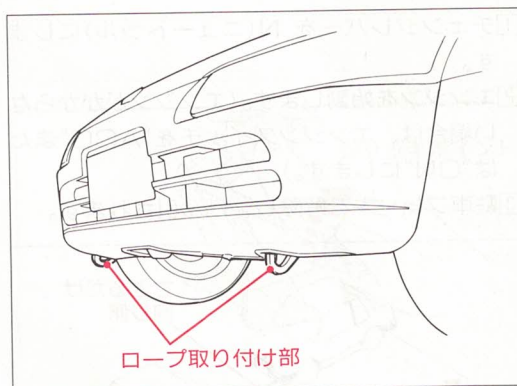
### 故障の修理について

ホンダプリモ店へお申しつけください。お持ちこみいただければ、簡単なものはその場で修理いたします。長くかかるものは、予定をお知らせします。お持ちこみのむずかしいときには電話でご連絡ください。遠出などのときは全国どこでもホンダ販売店へご連絡ください。所在地、電話番号については別冊の「整備手帳」をご覧ください。

### けん引について

#### ●ロープ取り付け部

けん引されるときには、ロープ取り付け部を利用します。



- 他の部分へロープなどをかけないでください。
- ロープ取り付け部は、けん引されるときにのみお使いください。

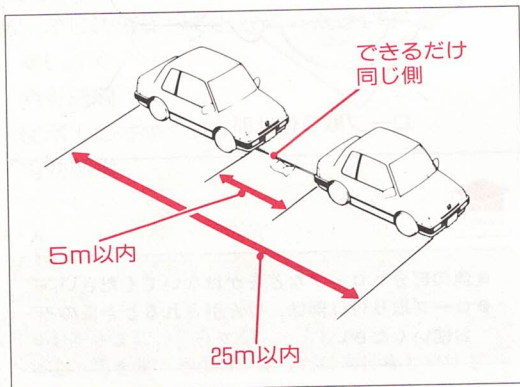
■高速道路で故障したとき ■故障の修理について ■けん引について

●けん引されるとき

けん引されるときは後輪を持ち上げた状態で行ってください。

やむをえず全輪を接地させて行う場合は、次の方法で行ってください。

- ①チェンジレバーを N(ニュートラル)にします。
- ②エンジンを始動します。(エンジンがかからない場合は、エンジンスイッチを"ACC"または"ON"にします。)
- ③駐車ブレーキを解除し、けん引されます。



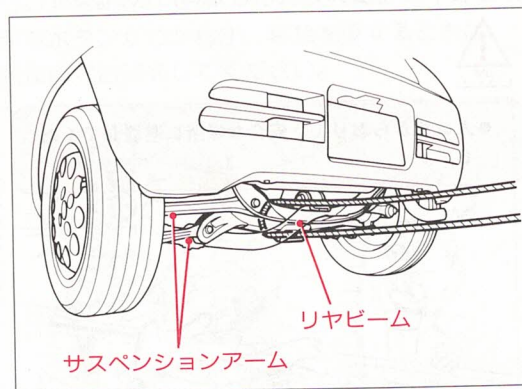
- けん引車の制動灯に注意して、ロープをたるませないようにしてください。また、ロープには白い布(0.3m平方以上)を必ず付けてください。



- エンジンがかからない状態でけん引される場合は、次のことに十分注意してください。
  - ・ブレーキの倍力装置がはたらかなくなるので、ブレーキのききが悪くなります。
- 長い下り坂では、ブレーキ部の温度が上がリブレーキがきかなくなるおそれがあります。レッカー車にけん引してもらってください。

●動けなくなったとき

脱輪などして後方へ引き出す場合は、リヤビームを使用します。



- リヤビームを使用して引き出した場合は、すみやかにホンダプリモ店で後輪アライメントの点検を受けてください。



- 他車のけん引には、絶対に使用しないでください。
- サスペンションアームでは、絶対にけん引しないでください。

## パンクしたとき

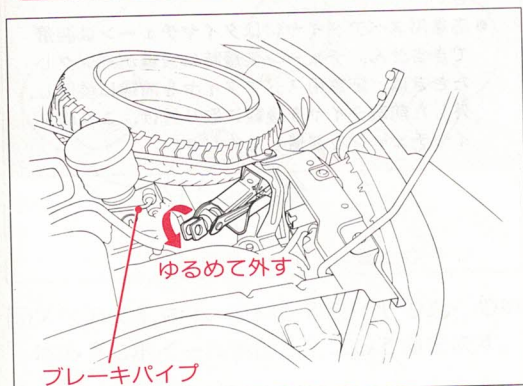
### ジャッキの取り扱い

#### ●ジャッキの取り出しかた

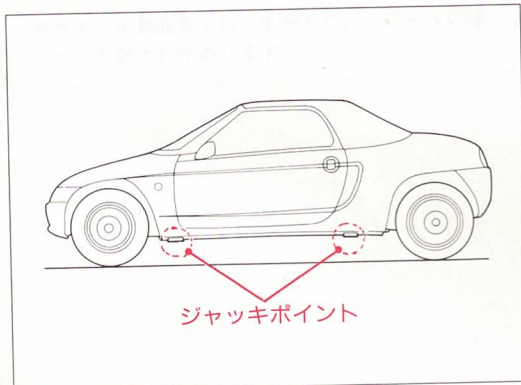
フロントコンパートメント内のジャッキをゆるめて外します。



- 工具類は熱くなっている場合がありますので、使用する際は注意してください。
- ジャッキを出し入れするときは、ブレーキパイプに当たらないように注意してください。

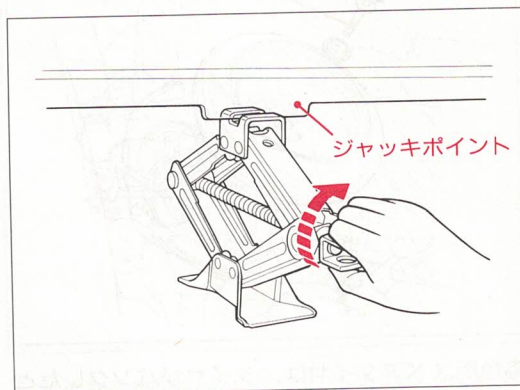


#### ●ジャッキをかける位置

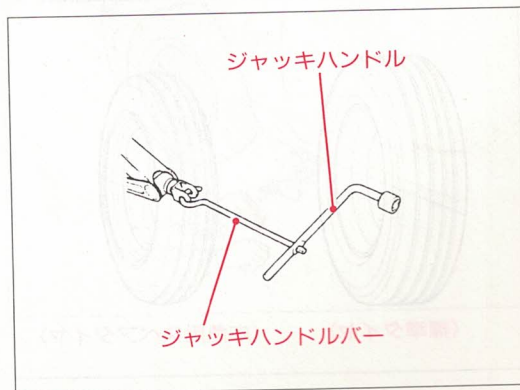


#### ●ジャッキのかけかた

- ① ジャッキを地面の平らな固くて安定できる場所に置きます。
- ② ジャッキを手で回して、ジャッキの溝がジャッキポイントに入るまで上げます。



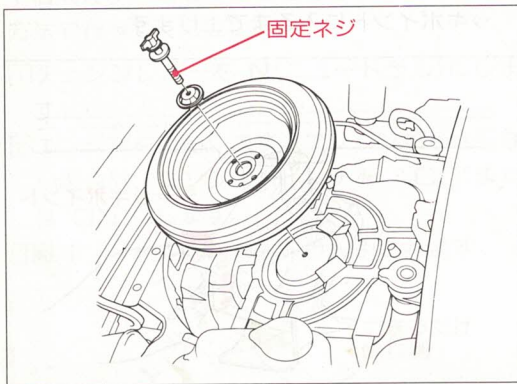
- ③ ジャッキハンドルとジャッキハンドルバーを使って、タイヤと地面が少し離れるまで車体を上げます。



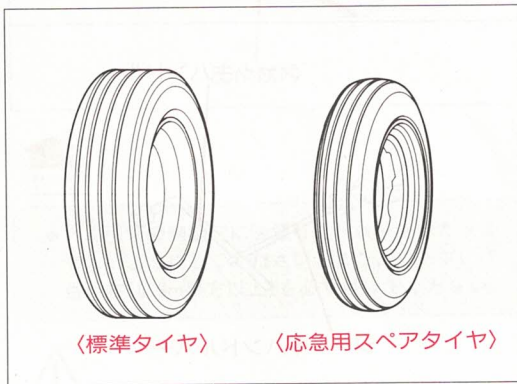
■ ジャッキの取り扱い

### 応急用スペアタイヤ

ボンネットを開け、固定ネジをゆるめて左側から取り出します。



応急用スペアタイヤは、タイヤがパンクしたときの応急用としてのみを使うタイヤです。応急用スペアタイヤは標準タイヤに比べて、直径がやや小さくできています。



お使いになるときは次の注意事項をお守りください。



- 空気圧はときどき点検し、指定空気圧でお使いください。  
(指定空気圧：4.2kg/cm<sup>2</sup>)
- 応急用スペアタイヤを装着したときは80km/h以下で走行し、できるだけ早く標準タイヤに交換してください。
- 応急用スペアタイヤは標準タイヤと比べて直径が小さいため車高が低くなります。突起物など乗り越えるときは、車の下にひっかかないように注意してください。
- この応急用スペアタイヤとホイールはあなたのお車の専用品です。他のタイヤやホイールと組みわせたり、他の型式の車に使わないでください。
- 応急用スペアタイヤにはタイヤチェーンは装着できません。チェーン装着時に後輪がパンクしたときは、応急用スペアタイヤを前輪に装着し、外した前輪タイヤを後輪に取り付け、これにタイヤチェーンを装着してください。



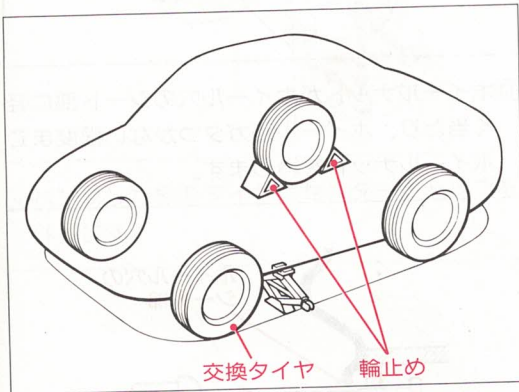
## タイヤ交換

①車を安全な場所に停め、工具類を取り出します。



●工具類は熱くなっていることがありますので、取り出す際には注意してください。

②駐車ブレーキを十分にかけ、交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に輪止めをします。



③スペアタイヤは、交換するタイヤの近くの車体の下にホイール表面を上にして置きます。

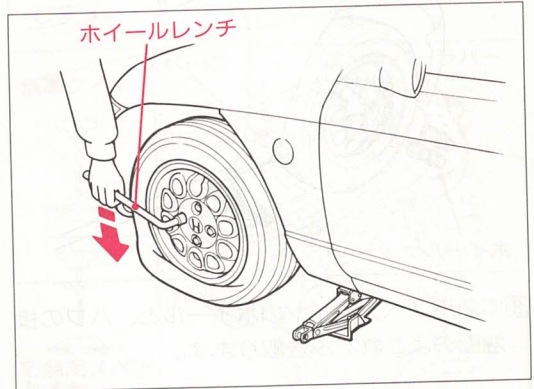


●ホイール表面を下にして置くと、ホイールに傷がつくおそれがあります。

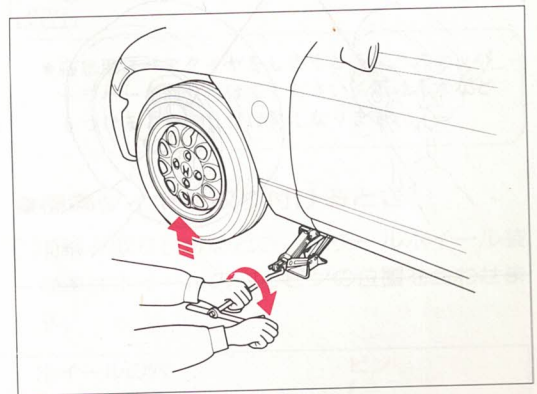
④ジャッキをセットします。

→89ページ

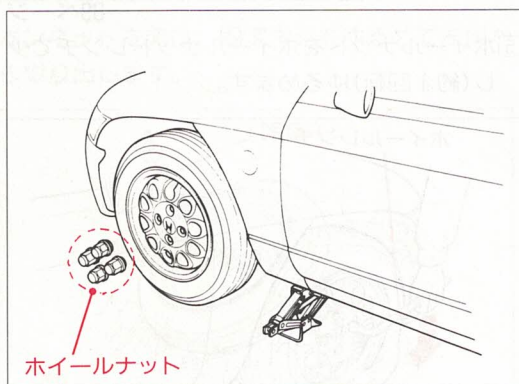
⑤ホイールナットをホイールナットレンチで少し(約1回転)ゆるめます。



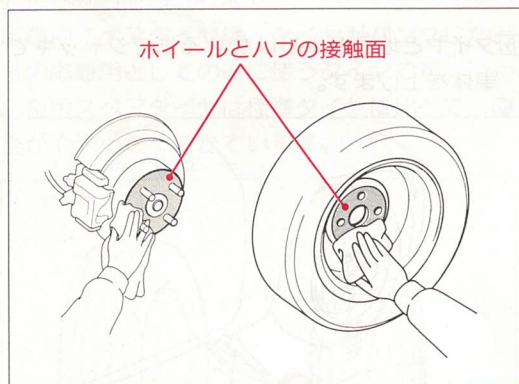
⑥タイヤと地面が少しはなれるまでジャッキで車体を上げます。



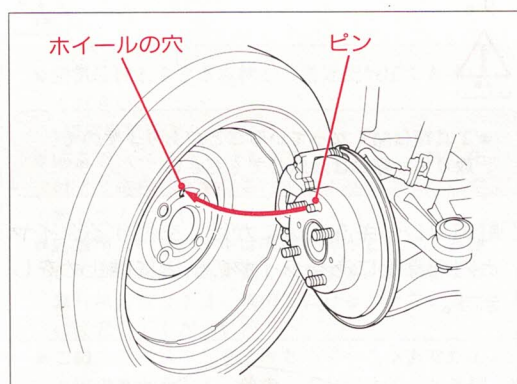
⑦ホイールナットを外し、タイヤを外します。



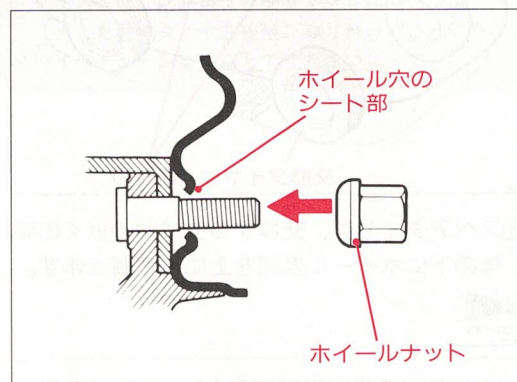
⑧応急用スペアタイヤのホイールと、ハブの接触面をよこれをふき取ります。



⑨応急用スペアタイヤを取り付けます。前輪に取り付けるときには、ホイールの穴とピンの位置を合わせます。

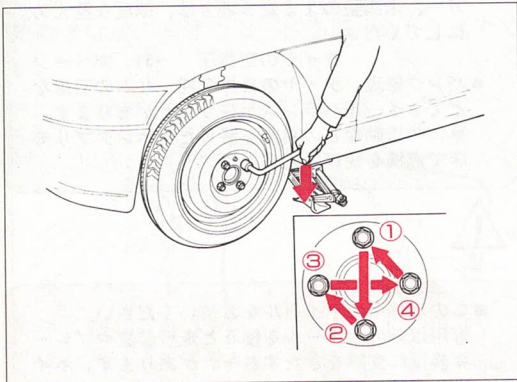


⑩ホイールナットがホイール穴のシート部に軽く当たり、ホイールがガタつかない程度までホイールナットを締めます。

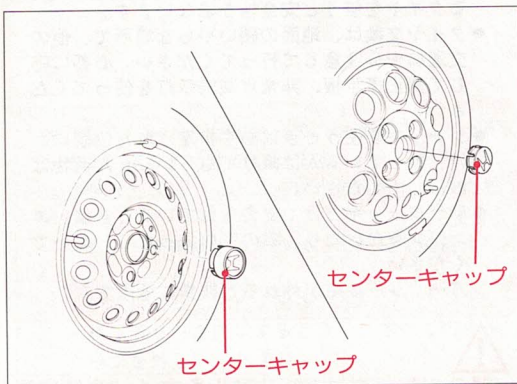


⑪ジャッキをおろし、図の番号順に2～3度にわたり、ホイールナットをしっかりと締め付けます。

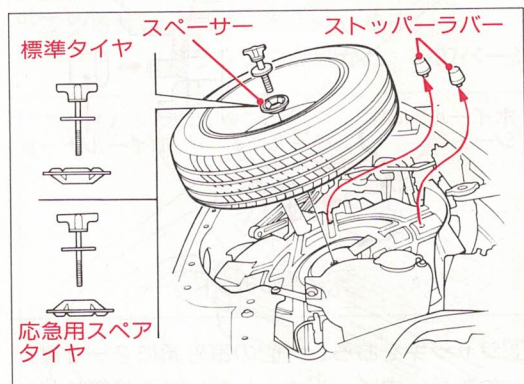
ホイールナット締め付けトルク：  
10～12kgm(参考)



⑫パンクした標準タイヤはセンターキャップを外します。



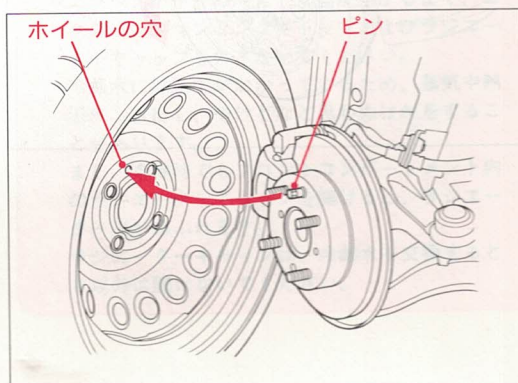
⑬パンクした標準タイヤをフロントコンパートメントにしまうときは、ストッパーラバーを外します。スペーサーは、応急用スペアタイヤを固定していたときとは逆向きにして固定します。



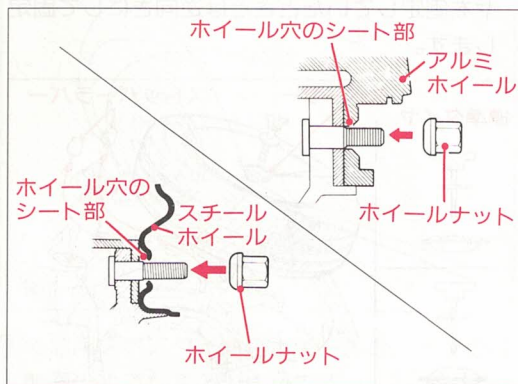
●応急用スペアタイヤをしまうときは、ストッパーラバーを取り付けてください。石けん水などをつけると、取り付け易くなります。

●標準タイヤを取り付けるとき

①前輪を取り付けるとき、スチールホイール装備車はホイールの穴とピンの位置を合わせます。

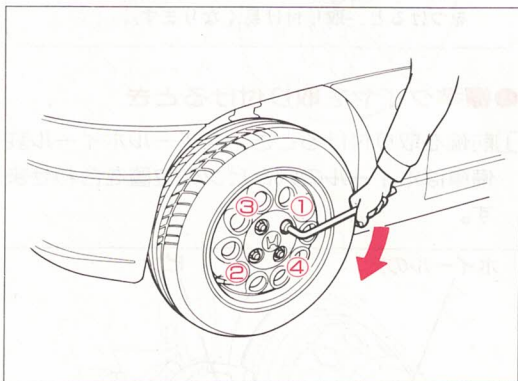


②ホイールナットがホイール穴のシート部に軽く当たり、ホイールがガタつかない程度までホイールナットを締めます。



③ジャッキをおろし、図の番号順に2～3度にわたり、ホイールナットをしっかりと締め付けます。

ホイールナット締め付けトルク：  
10～12kgm(参考)



- レンチを足で踏んだり、パイプなどを使って必要以上に締め付けしないでください。トルクがかかりすぎることがあります。
- スペアタイヤの空気圧は使うときに調整してください。万ー、未調整のまま走る場合は、速度を控えめにしてください。

タイヤの空気圧 → 51、105ページ

- パンク修理、タイヤの自然摩耗、リムの変形などでホイールバランスが狂うことがあります。車体の振動などの異常を感じたらホンダプリモ店で点検を受けてください。



- この車専用のホイールをお使いください。専用以外のホイールを使うと走行装置やブレーキ装置に支障をきたすおそれがあります。ホイール交換に際しては、必ずホンダプリモ店にご相談ください。
- 必ず指定サイズ、同一種類のタイヤを使ってください。指定サイズ以外のタイヤや種類の異なるタイヤを使うと安全性を損ないます。
- タイヤ交換は、地面の硬い平らな場所で、他の交通に十分注意して行ってください。必要に応じて停止標示板、非常点滅表示灯を使ってください。
- ジャッキを使うときは必ず指定された位置にかけ、乗っている人は降りてもらい、また荷物はおろしてください。
- 車がジャッキだけで支えられているときは、エンジンをかけたり、車の下に入ったりしないでください。万ー、ジャッキが外れると非常に危険です。

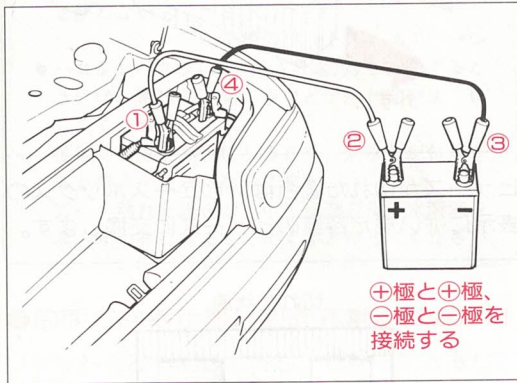


**アルミホイール装備車**

- ホイールナットとハブのネジ部には、絶対に油をつけないで下さい。油がついていると、ゆるみの原因になります。
- パンク修理などでホイールを取り付け直したときには、1,000km走行時にホイールナットのゆるみの有無を点検してください。
- インパクトレンチによる締め付けは避けてください。

## バッテリーあがりのとき

他のバッテリーを利用してエンジンをかけるときは、図の番号順にコードを接続し、エンジン始動後は逆の順序でコードを取り外してください。

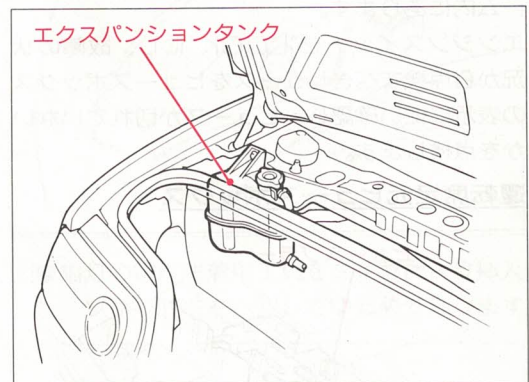


- バッテリーからは可燃性のガスが発生しているので、爆発の危険があります。バッテリーを取り扱うときは、以下の点に十分注意してください。
- ・コードを接続するときは、 $\oplus$  $\ominus$ 極を間違えないでください。  
ショートして火花が出ることがあります。
- ・バッテリーを充電するときは、すべてのキャップを外してください。  
バッテリー液の補給 →113ページ
- ・換気に十分注意し、換気の悪い場所では行わないでください。
- 安全のため、押しがけはしないでください。

## オーバーヒートしたとき

①車を安全な場所に止め、エンジンを止めトランクを開けて風通しをよくします。

トランクの開けかた →37ページ



②エンジンが冷えてから、冷却水量、ホースなどからの水漏れを点検します。

冷却装置の点検 →48ページ

③冷却水が不足していたら補給します。

冷却水の補給 →111ページ



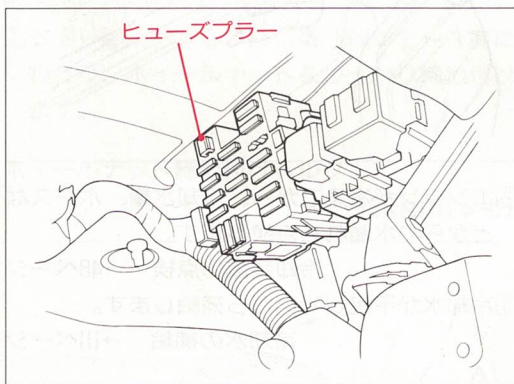
- エンジンが十分に冷え、水温が下がるまで、エキスパンションタンクキャップおよびラジエーターキャップを外さないでください。  
冷却水には圧力がかかっているため、蒸気や熱湯がふき出し、やけどなど思わぬけがをすることがあります。  
また、冷機時でもフロントコンパートメント内のラジエーターキャップを開けると、ラジエーター液があふれます。  
ラジエーターキャップは、冷却水を交換するとき以外は開けないでください。

## ライト類が点灯しないとき

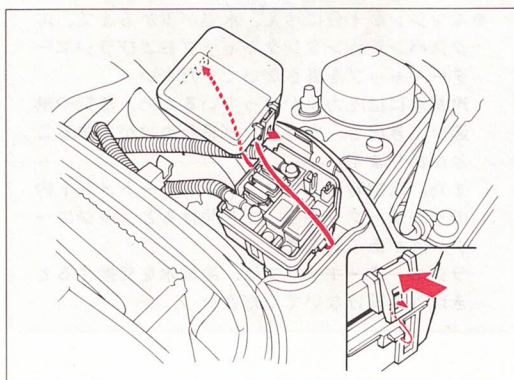
### ヒューズの交換

ヒューズボックスは、運転席足元、トランクルーム内にあります。  
エンジンスイッチを“LOCK”にし、故障の状況から点検すべきヒューズをヒューズボックスの表示に従い確認し、ヒューズが切れていないかを点検します。

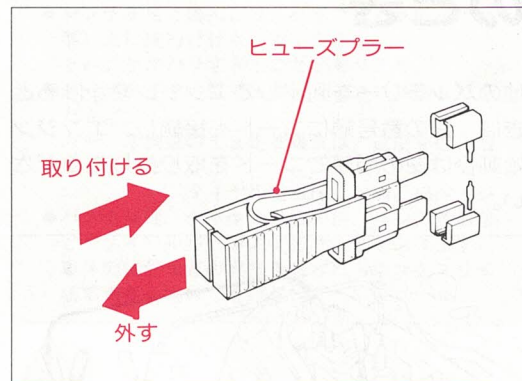
#### 運転席足元ヒューズボックス



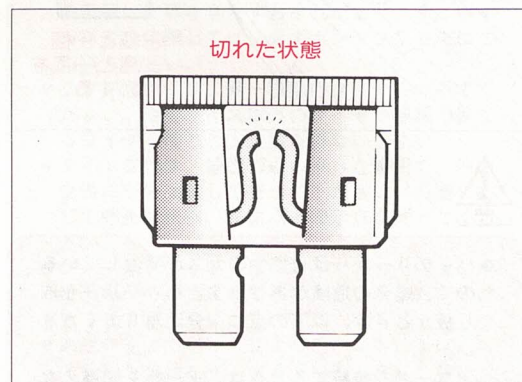
#### トランクルーム内ヒューズボックス



備えつけのヒューズプラーでヒューズを外します。



ヒューズが切れた場合は、ヒューズボックスの表示に従い規定容量のヒューズに交換します。



- 交換してもすぐにヒューズが切れる場合は、ホンダプリモ店で点検を受けてください。



- 規定容量のヒューズ以外のものは絶対に使わないでください。  
配線コードなどを焼損させる原因となります。

## 電球(バルブ)の交換

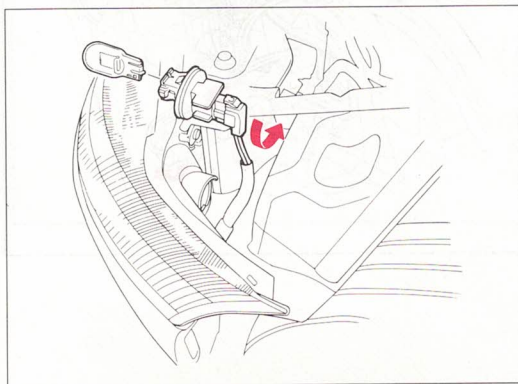
電球切れが確認された場合には、次の要領で交換します。



- ランプ本体やレンズを外すときは、ボディに傷を付けないように注意してください。
- 電球を交換するときはワット(W)数の違うものを使わないでください。  
電球のワット数 →131ページ
- ハロゲンバルブ(ヨウ素入り電球)を交換するときには、電球の表面に手などが触れないようにしてください。  
使用時電球が高温になるため、油などが付着すると寿命が短くなります。  
万一、触れた場合は、中性洗剤の薄い水溶液を柔らかい布に含ませてよくふき取ってください。

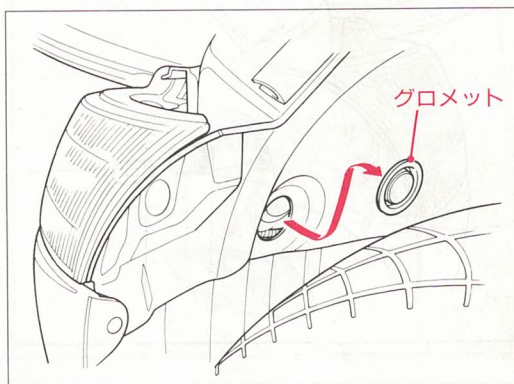
### ● 前面方向指示器/前面非常点滅表示灯

ソケットを左へ回して外し、電球を抜き取ります。

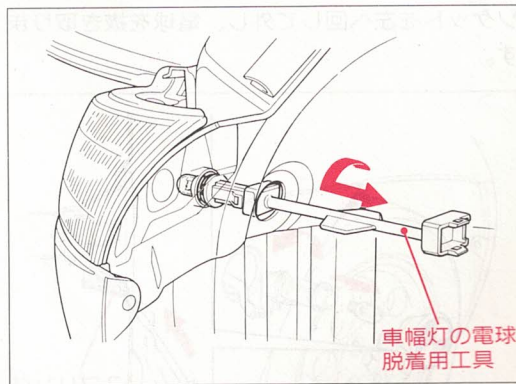


### ● 車幅灯

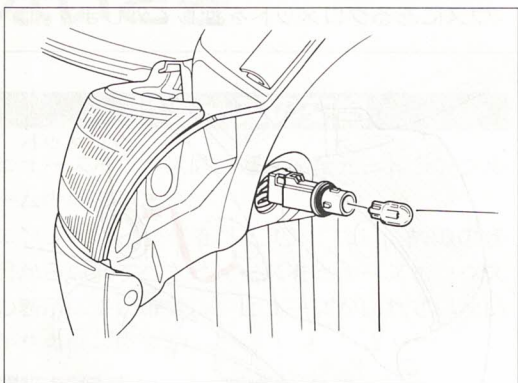
①フロントコンパートメント側から、タイヤハウスにあるグロメットを押し外します。



②車幅灯の電球脱着用工具をタイヤ側より挿入し、ソケットを左へ回してゆるめて外します。

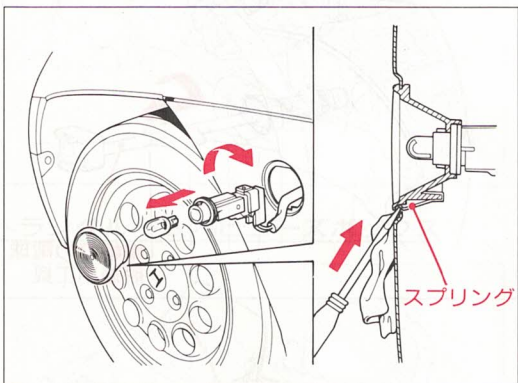


③電球を交換し、ソケットを車幅灯の電球脱着用工具で確実に取り付けます。



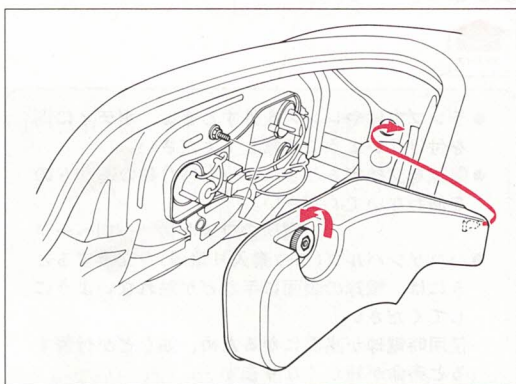
●側面方向指示器／側面非常点滅表示灯

ドライバーの先端に布などを巻き、下方よりスプリングを押しながらランプ本体を外します。ソケットを左へ回して外し、電球を抜き取ります。

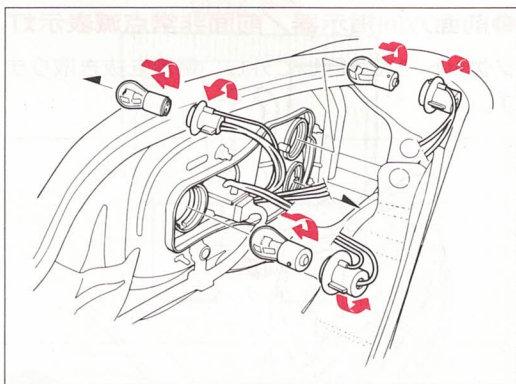


●制動灯／尾灯、後方方向指示器／後方非常点滅表示灯、後退灯

①左側はネジをゆるめ、カバーを開けます。



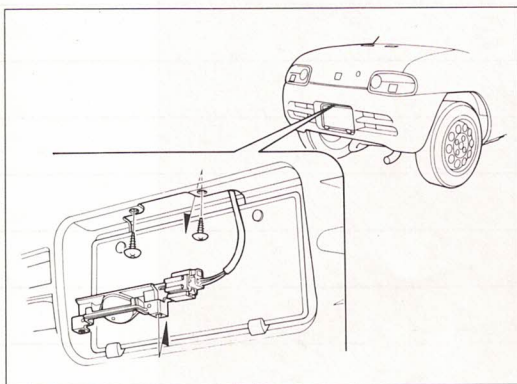
②ソケットを左へ回して外し、電球を押しながら左へ回し抜き取ります。



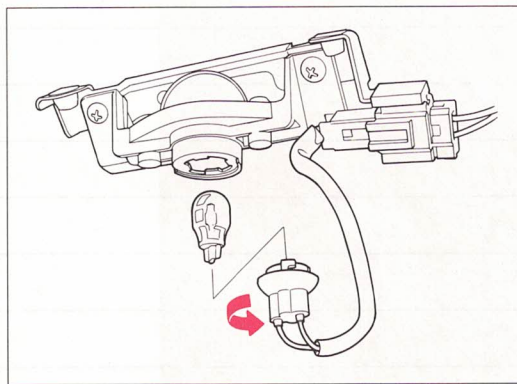


●番号灯

①ネジを外し、ランプ本体を外します。

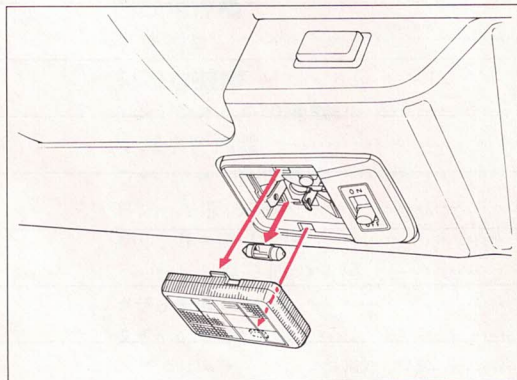


②ソケットを左へ回して外し、電球を抜き取ります。



●室内灯

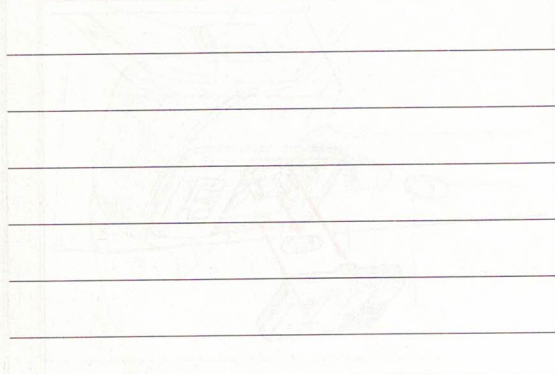
レンズを外して電球を抜き取ります。



MEMO

1. 設計の目的と範囲を明確にする。

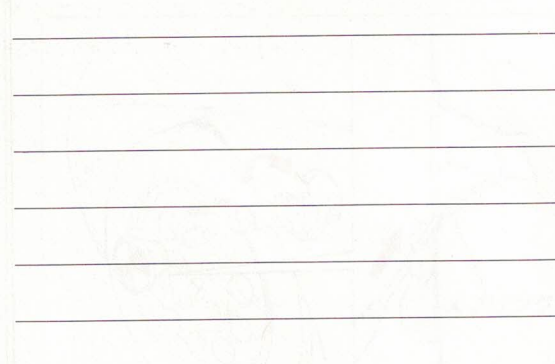
2. 必要な資料や情報を収集する。



3. 設計の進捗状況を定期的に確認する。

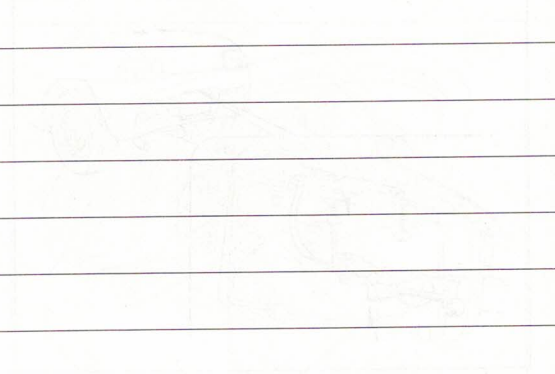
4. 設計の成果を関係者に報告する。

5. 設計の最終確認と承認を受ける。



6. 設計の最終確認と承認を受ける。

7. 設計の最終確認と承認を受ける。



8. 設計の最終確認と承認を受ける。

9. 設計の最終確認と承認を受ける。

